

31st March 2023

畿央大学 看護実践研究センター

Newsletter

Vol.4

CONTENTS

- ・看護実践研究センター長挨拶 看護実践研究センター長 山崎 尚美
- ・＜各部門の事業報告や次年度の抱負・トピックス＞
認知症ケア部門/卒後教育部門/地域包括ケア部門



看護実践研究センター長 挨拶

看護実践研究センター長・看護医療学科 教授 山崎 尚美

今回のニュースレターは、発刊第4号として、2022年度の事業報告を掲載いたします。2020年4月以降の約3年間はCOVID-19の感染とともにまさに“With コロナ”という状況下であり、看護実践を提供している現場の方々もクラスター発生やその対応、さらなる感染予防対策を余儀なくされており、そのような中でのセミナーへの参加や研究活動を遂行することは涙ぐましい日々の努力をされたことと思います。2022年度は、どんどんと緩和されていく社会と医療現場、殊に高齢者の多い施設との“危機感の乖離”を実感せずにはいられない1年間でした。

しかし、そのような状況下において、本センターは開設4年目は“After コロナ”に向けて感染予防対策をしつつ、制限のあるなかで

はありましたが新規企画や新体制へ向けての検討を行ってまいりました。看護実践研究センターは、『看護実践研究に関する研究基盤形成および次世代の人材育成』をコンセプトとしています。そして、現在は認知症ケア部門、地域包括ケア部門、卒後教育部門を中心に、保健、医療または看護を専門とする職業人および研究者に対して、最新の看護実践に関する情報を提供し、看護実践研究を推進しています。

今年度は、前年度に続きオンラインを活用したハイブリット型セミナーの開催や対面型のセミナーの開催の後援活動を行ってきました。今まで実施できなかったことも、このコロナ禍においてオンライン下で可能になったこともたくさんありましたが、できなかった

ことのすべてを COVID-19 のせいにするのではなく、制限のある中で限られた制約のもとで活動できたことは前年度同様に「ケアを止めない」こと、ケアを継続することは「新しいケア様式の確立」につながっていくことと実感しています。2023 年 5 月には感染症分類も区分変更になり地域の人々の暮らしも段階的に以前の生活に近づいていくでしょうが、コロナ禍に学んだ多くの知見を活かしつつ社会の動きや人々の生活様式と乖離しない地域

社会を築いていきたいと思っています。そのためには、部門の再編成を視野にいれつつ新部門の設置も検討課題としていきます。最後に、これからのセンターの運営・活動へのご支援を賜りますとともに、センターの活用していただき、活発な看護実践および研究活動が行われることでさらなるセンターの発展が図れますよう、ご支援賜りたくお願い申し上げます。



各部門の事業報告や来年度の抱負・トピックス

認知症ケア部門 部門長：看護医療学科 教授 山崎 尚美 副部門長：看護医療学科 准教授 上仲 久

認知症ケア部門認知症部門では、認知症ケア専門士などの看護職・介護職に対する研修会を奈良県認知症ケア専門士会と共に 6 月(Web セミナー)を開催しました。今年度も Zoom 活用してセミナーを実施しています。

■ 2022 年 6 月 19 日(日) 13:30~16:40 オンラインセミナー (Zoom)

畿央大学看護実践研究センター 第 7 回 研修会 「地域で・笑顔で 生きるとは」

2022 年 6 月 19 日(日) 13:30 から、看護実践研究センター 認知症部門主催で、第 7 回研修会「地域で・笑顔で 生きるとは」をオンラインで開催しました。この研修会には、奈良県認知症ケア専門士会との共催で行われ、およそ 30 人の方が参加しました。

前半の講師は、認知症の当事者たちを支援する「たぬき倶楽部」代表で、日本認知症本人ワーキンググループメンバーの竹内裕氏でした。竹内氏はご自身も若年性認知症と診断された経験から、当事者目線での様々な活動や講演会を積極的に行っておられ、畿央大学の学生サークル OrangeProject® にも関わってくださっています。

認知症ケア専門士単位認定(2単位)予定

**畿央大学看護実践研究センター
第7回研修会のご案内**

地域で・笑顔で 生きるとは

講師紹介
特定非営利活動法人もももろの水「地域
コミュニティ支援員」「たぬき倶楽部」代表
DAYS BLOG 運営事務代理
日本認知症本人ワーキンググループ

日時 2022年6月19日(日) 13:30~15:30

・対談60分 竹内 裕氏×山崎 尚美氏(畿央大学看護実践研究センター センター長)

・意見交換60分「アフターコロナにおける職員のメンタルヘルス」

場 所 Zoomによるオンライン研修

講 師 竹内 裕氏

対 象 認知症ケア専門士 看護職・介護職・教育関係者他

申 込 右記QRコードよりお申込みください

※QRコードからお申込みできない場合はdcq@nicori.or.jpまでお問い合わせください

参加費 無料

主催:畿央大学看護実践研究センター 認知症部門

共催:奈良県認知症ケア専門士会

【お問い合わせ】
①畿央大学 看護実践研究センター 山崎
Email: n.yamasaki@kio.ac.jp

②和里(にこり)内
奈良県認知症ケア専門士会事務局 樋野
TEL 0745-52-0125(音声ガイダンス6)
※電話受付時間 平日(月~金)9:00~17:00

前半は竹内氏と部門長の山崎との対談形式で行いました。

参加者の方から、「コロナ禍で認知症高齢者の方の介護を配偶者が1人で抱え込んでしまい、認知症が進行してから相談に来られるケースが増えている。その状態が続くとご家族が疲弊してしまうため公的サービスを使っていたきたいが、当事者の意思もありなかなかサービス利用につながらない。」という講義がありました。コロナ禍で外からの情報があり入りずにとずっとご夫婦のみで生活していると共依存の状態となり、新たな刺激を望まなくなるため、当事者やご家族が行きたいと思える場所が増えるといいという意見から、当事者やご家族に認知症カフェやサロンなどを知って頂き、一緒に出掛けようと思っていただくことが必要だと説明されていました。竹内氏は、「一緒に出掛けたいと思える場所とは、当事者がやりたいことをやれる場所であり、それを見つけるためにはまず自分がしたいことを伝える。皆さんには、相手と同じ目線で伝えるということを身につけてほしい」と語られていました。ちなみに、たぬき倶楽部ではランチカフェやソフトボール、夜の町

内会など様々な催しを実費制（自己責任）で実施しており、ランチカフェに関わる人は民生委員やボランティアで、win-winな関係だから続けることができることを強調されていました。受講者の方は地域の方がこうした活動に参加されるのは理解者を増やし、地域の交流を深め、また情報発信源として活躍してくださることで、認知症の人とご家族が暮らしやすいまちづくりにつながっていることを実感されていました。

また、対談の中で、コロナ禍で制限がかかる状態に慣れてきているが、認知症ケアを行う人は何に対してもコロナ禍のせいにして活動を縮小するのではなく、向き合えるようにする必要があること、コロナ禍でもできる支援を考え、地域に合わせた方法で実践していくことの必要性が共有されました。

後半は、「アフターコロナにおける職員のメンタルヘルスケア」と題してオンライン下でのディスカッションとミニ講義が行われました。コロナ禍における面会制限や勤務体制の交換などでストレスに感じていることや不安などを吐露する目的として小グループで分かれて実施しました。

ディスカッションの中では、認知症啓発活動について、専門職の話よりご本人の話の方が届くので、若年性認知症の方の講演会を企画しているという話や、病院勤務の看護師さんが体験した検査や手術などの際の認知症の方に対する対応について意見交換したり、施設に入居するとコロナ禍で面会ができないため、入所をためらっている方も多いとの意見もありました。長引くコロナ禍の影響で、認知症ケアの現場にも様々な影響が出ている現状を知り、参加者はwithコロナ時代において認知症の人とご家族が安心して暮らせるために、認知症に対する正しい知識の普及とその人の想いに寄り添ったきめ細やかな対応が必要だと実感していました。



オンラインセミナー参加のみなさん
(写真掲載の承諾を得ています)

また、ディスカッションの後、ストレスマネジメントの方法として「言葉の花束交換」について講義をしました。人は「～ねばならない・～であってほしい」という願望（ラショナル・ビリーフ）を使いがちですが、これは事実に基づいておらず気持ちを惨めにするた

め、事実に基づいた論理性のある言葉（ラショナル・ビリーフ）「～であるにこしたことはない」という言葉に置き換えると気持ちが楽になるという方法があることを受講して終了しました。

卒後教育部門 部門長：看護医療学科 教授 山本 裕子 副部門長：看護医療学科 准教授 林田 麗

看護専門職では生涯にわたる教育が不可欠です。卒後教育部門はさまざまな現場で活躍する看護医療学科卒業生たちが最先端の知識・技術を習得するための機会を提供すべく活動します。

■ 2022 年 5 月 22 日（日）14：30～16：00

第 4 回卒後教育研修会「看護における臨床判断」（オンライン（Zoom）開催）

講師：奥村絵里さん・奥村紗和子さん（看護医療学科 2 期生）

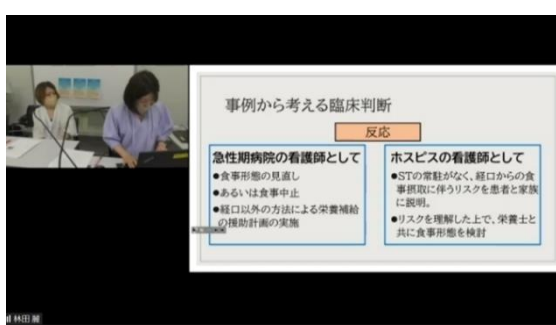
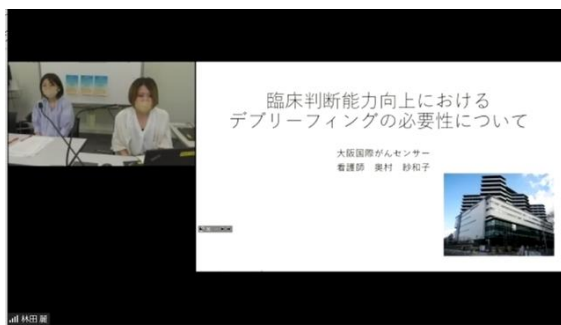
2022 年度の卒後教育研修は看護医療学科 2 期生の奥村絵里さんと奥村紗和子さんを講師としてお招きし、臨床での実践経験を基に臨床判断についてお話していただきました。

研修の冒頭では看護医療学科林田麗准教授から臨床判断について解説していただき、その後、講師お二人の講演となりました。奥村絵里さんは急性期病院での勤務経験と現在のホスピスでの勤務経験から臨床判断の際の視点を対比させて、急性期ではいかに異常を早期に発見し、早期に対処するかに視点が置かれることに対し、ホスピスでは異常が発現するのは当然の成り行きであり、いかに患者のニーズを引き出して把握し、充実させていくかに視点が置かれることについて講演していただきました。

奥村紗和子さんには、Kolb の経験学習モデ



ルを活用しながら勤務している病棟で実践している臨床判断能力を高めるための方法について講演していただきました。奥村紗和子さんの勤務する施設では PNS（パートナーシップ・ナーシングシステム）が採用されています。その看護方式の特色を生かして、臨床判断能力を高めるための取り組みとして重視されていたのが省察（リフレクション）でした。



ペアとなる看護師との業務開始前の簡単なブリーフィングと業務終了時のデブリーフィングを実施し、デブリーフィングでは振り返りシートを活用して、実践の内容を客観化しているとのことでした。また、デブリーフィングの際、良かった点をみつけて振り返ることこそが臨床判断能力を高めるために重要であると力説されました。

参加した看護医療学科4年生の学生からは「省察を繰り返すことで、少しでも先輩たちのような素晴らしい思考力のある看護師に近づきたいと思う」等の感想もありました。貴重なお話をしてくださいました奥村絵里さん・奥村紗和子さんに感謝申し上げます。

なお、2023年度は畿央大学開学20周年記念事業の一環として、2022年度の研修会でも注目された省察（リフレクション）をテーマとし、12月2日（土）午後、看護医療学科企画と合同で研修会を開催します。卒業生と教員が歓談できる場も設けます。詳細は今後、HP等でもお知らせいたします。多くの教職員、卒業生の皆さまのご協力、ご参加をお願いいたします。

【畿央大学開学20周年記念事業】
看護医療学科企画
看護におけるリフレクション

今回、畿央大学開学20周年記念事業として、看護医療学科では、リフレクションをテーマに取り上げて、講演会と意見交換会を開催します。
 リフレクションは、看護実践において経験知・実践知を育み、やりがいを獲得するためにも重要です。
 講師にはリフレクションに関する著書を多数出版されている東めぐみ先生をお招きします。
 これから看護職として一歩を踏み出す皆さんにとってもきつと役立つ内容です。自己の看護実践に意味づけし、価値を見出して行く方法を学びましょう。
 看護医療学科の歩みを知り、同級生・卒業生・教員と交流できる場も設けます。

月日：2023年12月2日（土）
 時間：13時～16時
 場所：畿央大学KB04講義室
 および「カトレア」

プログラム：
 ①講演：日本赤十字北海道看護大学
 成人看護学教授 東めぐみ先生
 「看護におけるリフレクション」
 ②ワールドカフェ（意見交流）
 ③歓談

参加申し込み・企画に関する新情報等は、大学HPをチェックしてください。

問い合わせ先
 畿央大学 看護医療学科 山本
 (yuko.yamamoto@kio.ac.jp)

地域包括ケア部門

部門長：看護医療学科 教授 松本 泉美

■ 2022年10月22日（土）14：00～15：30 がんカフェ開催



COVID-19の影響で畿央祭ウェルカムキャンパスが中止となり、昨年はWebでの開催、そして今年度は、3年ぶりに人数制限した事前参加申し込み制で対面開催しました。

今年度は、テーマを「がん患者として・家族としての思いを語ろう」と設定し、がんカフェ開催の原点に立ち戻り、がん患者およびその家族の語りを通して、それぞれの思いを参加者とともに理解する機会としました。



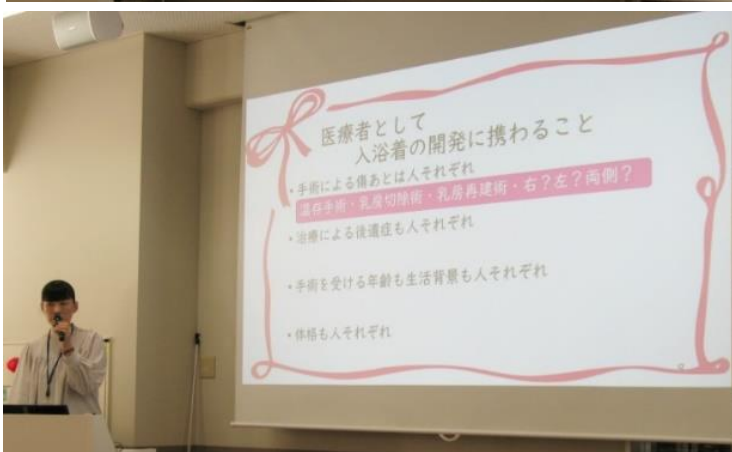
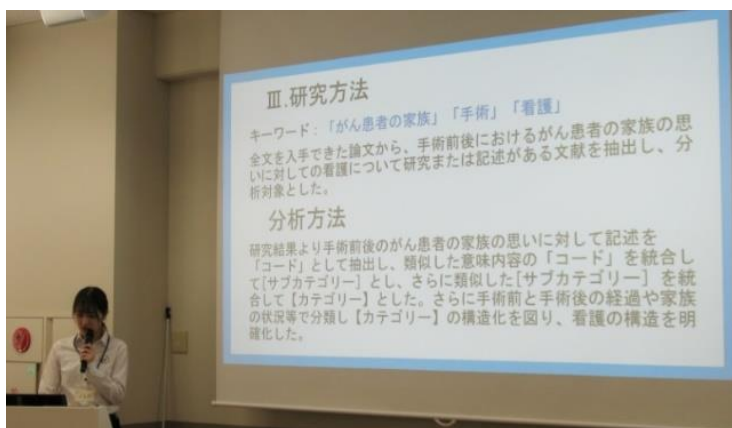
プログラムとしては、スピーカーは企画者の松本、卒業研究でがん患者家族の思いについて論文を執筆した本学4回生、乳がん術後入浴着を開発した本学教員中西講師とし、松本から、「がん患者家族としてのがんカフェ開催を通して伝えたいこと」として、看護師・保健師としてがん患者さんとの出会いや支援経験、がん検診を受診していなかったがん患者の家族としての最後の看取りが出来なかった後悔の念から、がん検診受診の必要性やがんになった後の相談機関・治療と仕事の両立支援について説明しました。

4回生の越田さんからは、卒業研究を通して、家族ががんになった時の告知時・手術前後、化学療法時のがん患者家族の思いを明確化した中で、看護者としてがん患者だけでなく家族も不安や苦しみ・葛藤があることを理解することの重要性和今後、看護者として看護の実践をしていく上でこの研究を活かしていくことの決意が述べられました。

最後に中西講師からは、乳がんの手術を受けた看護者としての経験から、乳がん術後入浴着の開発に関わった思いや商品化までの経緯が説明されました。今回は、開発と商品化に尽力された株式会社 GSI クレオス様より、参加者プレゼントとして 20 枚のご提供を頂きま

した。この入浴着の開発に中西講師とともに取り組まれたデザイン学科の村田浩子教授もご参加いただき、術後の傷の状況でこれまでの既製品の着脱のしにくさの課題等、中西講師の当事者としての意見に対応し、入浴時に乳房の形が表面に出ないこと、浴槽に入っても浮き上がらない工夫を凝らした素材開発およびデザインについて、お話して頂きました。

対面実施人数 20 名の参加申し込みがありましたが、残念ながら当日の実際の参加は減少しました。しかし地域で保健師として活躍している卒業生 3 名が参加し、各講演を聞いて「がんに罹患し手術をすることや治療の過程でさまざまな苦悩があり、また家族も同様に苦しんでいることが理解できた。住民に対するがん検診を企画する者として受診の利便性を高めることと、この入浴着の開発の思いを一般の方にも理解してもらえよう、設置してくれる場を広めていきたい」との発言がありました。がんカフェの目的であるがん



とがん患者および家族に対する理解の周知につながるものと確信しています。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。



■ 2022 年 11 月 26 日（土）13：30～15：00

看護実践研究センター第 8 回研修会開催

テーマ：医療的ケア児と家族が安心して暮らせる地域づくり

本研修会では、大阪発達総合療育センター医療コーディネート事業室（同センター元訪問看護ステーションめぐみ所長）絹川美鈴様を講師としてお招きし開催しました。医療の発達とともに在宅で医療的ケアを必要とする重度心身障害児は増加しており、その生活を維持するには、医療機関における看護から在宅看護への継続看護が重要であり、さらに公的支援機関である保健所・福祉部門、そして教育機関等との連携が課題となっています。



コロナ禍が継続している状況ですので、畿央大学での対面参加とオンライン参加のハイブリット開催とし、43 名の方にご参加いただき、保健センター、保健所、医療、福祉、教育機関の保健師、看護師、保育士、教師といった様々な職種の方にご参加いただきました。オンライン参加では九州、名古屋、京都など県外からの参加もありました。



講師からは、医療的ケア児に対する医療機関から在宅生活への移行支援、在宅生活を継続するための家族への支援とその継続に不可欠な地域包括ケアシステム活動を展開している支援機関(人材含む)との連携と協働の実践について、支援されたケースの状況を含め、分かりやすく作成された PowerPoint 資料を基にお話いただきました。在宅生活を継続させるための4つの視点である、地域支援、家族支援、移行支援と医ケア児が小児であることで重要となる発達支援や就学支援について、実践報告の中で現実として生じる課題を示していただきました。

質疑応答では、「保健師との連携で感じていること」「家族の気持ちを捉えるコツ」「ちょうどいい距離感の取り方」など具体的な質問が多くありましたが、時間を延長してご丁寧に回答をしていただきました。このご講演を拝聴して、医療的ケア児の養育者の頑張りを認め、励ますだけでなく不安なことを表出で



きるように声かけを行い、共通の支援目標に向かってチームで話し合いながら情報共有し連携して支援を行うことが重要であると感じました。参加者の方からは、「医療的ケア児への関わりで、傾聴や寄り添いの大切さを改めて考えることができた」「医療的なケアだけでなく、その

人の生活にも目を向けて支援していきたい」というお声をいただき、医療的ケア児やその家族の思いに寄り添う支援について考える貴重な機会となりました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

(文責：田中陽子)

【2023 年度の計画と抱負】

2022 年度は、研修計画としていた「障害者と家族が安心して暮らせる地域づくり」をテーマとした研修会を副部門長として、田中陽子准教授が加わったことにより実現することができました。さらに新任として着任した前田則子准教授が部門員として加わりましたので、それぞれの研究分野を活用した研修会を企画したいと思います。

① 研修計画：看護実践研究センター

第9回研修会

テーマ： 地域共生社会の実現に向けて～
様々な在留資格による外国人介護職受け入れの現状と課題～

日程： 2023 年 11 月 25 日 (土)

13:30～15:00

講師および講義内容

シンポジウム形式：対面と Zoom

ハイブリッド開催

シンポジストは外国人介護職を受け入れている地域密着型特別養護老人ホーム管理者等招聘予定

② 継続事業

テーマ：親子のきずなサロン「安心感の輪」

子育てプログラム

内容：「安心感の輪」子育てプログラム

日程：調整中（全8回）

第1回	「安心感の輪」子育てプログラムへようこそ
第2回	「安心感の輪」をめぐる子どもの要求を知ろう
第3回	「安心感の輪」に寄り添うこと
第4回	赤ちゃんの「安心感の輪」に寄り添うこと
第5回	安心感への道のり
第6回	自分自身の課題を見つめる
第7回	関係のほころびと修復
第8回	まとめとプログラム修了のお祝い

③ 継続事業：がんカフェの実施

2023年度もより充実した、また地域や関係する人材に貢献できる活動を推進していきたいと思います。